

令和元年 6月8日 第4回 新規受験勉強会 宿題

【選択問題】

第1問 次の1～4は、「霊供養について」書いてある。この中から教義に照らして正しいものを選び、その番号を○で囲め。

- 1 霊魂が霊界にいようが、現実界の何処かに生まれ変わっていようが、その人をめざして放送される「真理の念波」又は、聖經読誦の「霊波」は、相手に対して感応するものである。受信者の現在意識は知らなくても、その人は「真理の霊波」によって祝されるのである。
- 2 霊供養される人が生まれ変わっていたら、その人には当然届かないので、わざわざ霊供養する必要はない。
- 3 たとえ、現象界に生まれ変わっていても、その人が大した能力を発揮していないのに、大きな幸運に恵まれるような場合は、その人の霊魂に向かって「供養の善念」が送られている場合があるのである。
- 4 人間の霊は、永遠に生き通しであるが、霊供養はその生き通しの霊に向かって「祝福の供養」の念を送るのではないから、生まれ変わってはい供養する意義はなくなる。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第2問 『甘露の法雨』の「神」の項には、「この全能なる神、完全なる神の『心』動き出でてコトバとなれば一切の現象展開して万物成る」とある。この場合「一切の現象」とは何を指すか。次の1～6の中から、正しいものを選び、番号を○で囲め。

- 1 人間の五官で感じる現象の事物のことをいう。
- 2 神のコトバ（理念）の展開による実相世界のことをいう。
- 3 第六感と言うような靈感によって感じられる事物のことをいう。
- 4 「神の子・人間」の実相心の展開としての真象のことをいう。
- 5 霊魂たちが住まう霊界の諸現象のことをいう。
- 6 迷いの投影（かげ）としての偽象のことをいう。

『新講「甘露の法雨」解釈』参照

第3問 次の1～6は、聖經『甘露の法雨』の「神」の項の聖句の意味についての説明である。この中から、教えに照らして正しいものを2つ選び番号を○で囲め。

- 1 「或る日天の使い生長の家に来たりて歌い給う」とは、谷口雅春大聖師がお悟りを開かれた日のことである。
- 2 「神があらわれば乃ち 善となり 義となり 慈悲となり 調和おのずから備わり、一切の生物処を得て争うものなく、相食むものなく、病むものなく、苦しむものなく、乏しきものなし」と聖句にあるが、これは現象的に現われた地上天国のことである。
- 3 「或る日天の使い生長の家に来たりて歌い給う」の聖句の中で、生長の家とは、谷口雅春大聖師がお悟りを開かれた当時のご自宅のことである。
- 4 「創造の神は五感を超越している、六感も超越している、聖 至上 無限・・・」と説かれている。ここでいう創造の神は、創造された神という意味であるので、当然、第二義の神である。
- 5 「神こそ渾ての渾て、神は渾てにましまして絶対なるが故に、神の外にあるものなし。神は実在のすべてを蔽う。存在するものにして神によって造られざるものなし。」と聖句にはあるが実相世界の消息を説いたものである。
- 6 「『心』はすべての造り主、『心』は宇宙に満つる実質、」と説かれているが、この場合『心』とは全能の神の「心」のことではなく、肉体の脳髓から出た「念」のことである。

『新講「甘露の法雨」解釈』参照

令和元年 6月8日 第4回 新規受験勉強会 宿題解答

【選択問題】

第1問 次の1～4は、「霊供養について」書いてある。この中から教義に照らして正しいものを選び、その番号を○で囲め。

- ① 霊魂が霊界にいようが、現実界の何処かに生まれ変わっていようが、その人をめざして放送される「真理の念波」又は、聖經読誦の「霊波」は、相手に対して感応するものである。受信者の現在意識は知らなくても、その人は「真理の霊波」によって祝されるのである。
- 2 霊供養される人が生まれ変わっていたら、その人には当然届かないので、わざわざ霊供養する必要はない。
- ③ たとえ、現象界に生まれ変わっていても、その人が大した能力を発揮していないのに、大きな幸運に恵まれるような場合は、その人の霊魂に向かって「供養の善念」が送られている場合があるのである。
- 4 人間の霊は、永遠に生き通しであるが、霊供養はその生き通しの霊に向かって「祝福の供養」の念を送るのではないから、生まれ変わってはいは供養する意義はなくなる。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第2問 『甘露の法雨』の「神」の項には、「この全能なる神、完全なる神の『心』動き出でてコトバとなれば一切の現象展開して万物成る」とある。この場合「一切の現象」とは何を指すか。次の1～6の中から、正しいものを選び、番号を○で囲め。

- 1 人間の五官で感じる現象の事物のことをいう。
- 2 神のコトバ（理念）の展開による実相世界のことをいう。
- 3 第六感と言うような靈感によって感じられる事物のことをいう。
- ④ 「神の子・人間」の実相心の展開としての真象のことをいう。
- 5 霊魂たちが住まう霊界の諸現象のことをいう。
- 6 迷いの投影（かげ）としての偽象のことをいう。

『新講「甘露の法雨」解釈』参照

第3問 次の1～6は、聖經『甘露の法雨』の「神」の項の聖句の意味についての説明である。この中から、教えに照らして正しいものを2つ選び番号を○で囲め。

- 1 「或る日天の使い生長の家に来たりて歌い給う」とは、谷口雅春大聖師がお悟りを開かれた日のことである。
- ② 「神があらわるれば乃ち 善となり 義となり 慈悲となり 調和おのずから備わり、一切の生物処を得て争うものなく、相食むものなく、病むものなく、苦しむものなく、乏しきものなし」と聖句にあるが、これは現象的に現われた地上天国のことである。
- 3 「或る日天の使い生長の家に来たりて歌い給う」の聖句の中で、生長の家とは、谷口雅春大聖師がお悟りを開かれた当時のご自宅のことである。
- 4 「創造の神は五感を超越している、六感も超越している、聖 至上 無限・・・」と説かれている。ここでいう創造の神は、創造された神という意味であるので、当然、第二義の神である。
- ⑤ 「神こそ渾ての渾て、神は渾てにましまして絶対なるが故に、神の外にあるものなし。神は実在のすべてを蔽う。存在するものにして神によって造られざるものなし。」と聖句にはあるが実相世界の消息を説いたものである。
- 6 「『心』はすべての造り主、『心』は宇宙に満つる実質、」と説かれているが、この場合『心』とは全能の神の「心」のことではなく、肉体の脳髓から出た「念」のことである。

『新講「甘露の法雨」解釈』参照

第4問 先祖供養の意義について書かれている。正しいものに ○ をつけよ。

- 1 第一義的には、人間は神の子であるから、外から何ものかを付けくわえてもらう必要は無いのである。
- 2 肉体的自覚を脱し切っていない靈魂でも、既に肉体は無いのだから、お供えもの(物施)は特に必要がないのである。
- 3 私は、次男だから先祖供養は長男がしっかりお祀りしているので大丈夫である。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第5問 先祖供養の祭り方について正しいものに3つ ○ をつけよ

- 1 真理を自覚して自由自在の境地におられる靈魂は祀ってもらう必要はないから、その子孫は祀る必要がない。
- 2 子孫が先祖に対する報恩感謝の気持ちから、聖經を読誦し供養するも、ある程度悟った靈魂には、何ら影響はない。
- 3 子孫の先祖供養の聖經の功德によって、靈魂はこの真理の言葉を摂取して更に向上し、一層解脱して行かれる。
- 4 私達は、先祖に対して、「今までいろいろと子孫の受けてきた御恩に対して、ただ感謝のために真理の聖經を読誦させていただきます」と尊敬と感謝の念をもって聖經を読誦することが大切である。
- 5 供養によって先祖の御靈達はますます悟りが深まり、私達子孫に対する守護の念が強くなり、私達もいろいろな面で栄え、幸せになるのである。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第6問 先祖に対して聖經を読誦する時の心得について正しいものに ○ をつけよ

- 1 先祖に悟っていない靈がいると災いになるので、その靈を呼び出してよく聞くようにしてから聖經を読誦する。
- 2 ただ尊敬と感謝の念をもって聖經読誦すること。
- 3 先祖の靈に、聖經の意味を説明すること。
- 4 聖經読誦は自分の都合で読誦し時間は定める必要がない。
- 5 聖經読誦の時間を定めてご先祖と約束した上で聖經を読誦する。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第7問 先祖への聖經読誦の意味について間違っているものに ○ をつけよ

- 1 聖經は『生命の実相』全巻の真理を縮約したものになっている。
- 2 人間が読誦して悟りを開き、病気・苦悩・老衰・貧困などから救われるが、その功德は靈界には及ばない。
- 3 諸靈に対しても尊敬と報恩感謝の念をもって読誦すると、その真理を聞いて悟りをひらき、迷っていた障りの靈も守護の靈となり、いろいろな奇跡的な功德が生ずる。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第4問 先祖供養の意義について書かれている。正しいものに ○ をつけよ。

- ① 第一義的には、人間は神の子であるから、外から何ものかを付けくわえてもらう必要は無いのである。
- 2 肉体的自覚を脱し切っていない霊魂でも、既に肉体は無いのだから、お供えもの(物施)は特に必要がないのである。
- 3 私は、次男だから先祖供養は長男がしっかりお祀りしているので大丈夫である。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第5問 先祖供養の祀り方について正しいものに3つ ○ をつけよ

- 1 真理を自覚して自由自在の境地におられる霊魂は祀ってもらう必要はないから、その子孫は祀る必要がない。
- 2 子孫が先祖に対する報恩感謝の気持ちから、聖經を読誦し供養するも、ある程度悟った霊魂には、何ら影響はない。
- ③ 子孫の先祖供養の聖經の功德によって、霊魂はこの真理の言葉を摂取して更に向上し、一層解脱して行かれる。
- ④ 私達は、先祖に対して、「今までいろいろと子孫の受けてきた御恩に対して、ただ感謝のために真理の聖經を読誦させていただきます」と尊敬と感謝の念をもって聖經を読誦することが大切である。
- ⑤ 供養によって先祖の御霊達はますます悟りが深まり、私達子孫に対する守護の念が強くなり、私達もいろいろな面で栄え、幸せになるのである。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第6問 先祖に対して聖經を読誦する時の心得について正しいものに3つ ○ をつけよ

- 1 先祖に悟っていない霊がいると災いになるので、その霊を呼び出してよく聞くようにいってから聖經を読誦する。
- ② ただ尊敬と感謝の念をもって聖經読誦すること。
- ③ 先祖の霊に、聖經の意味を説明すること。
- 4 聖經読誦は自分の都合で読誦し時間は定める必要がない。
- ⑤ 聖經読誦の時間を定めてご先祖と約束した上で聖經を読誦する。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第7問 先祖への聖經読誦の意味について間違っているものに ○ をつけよ

- 1 聖經は『生命の実相』全巻の真理を縮約したものになっている。
- ② 人間が読誦して悟りを開き、病気・苦悩・老衰・貧困などから救われるが、その功德は霊界には及ばない。
- 3 諸霊に対しても尊敬と報恩感謝の念をもって読誦すると、その真理を聞いて悟りをひらき、迷っていた障りの霊も守護の霊となり、いろいろな奇跡的な功德が生ずる。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第8問 『甘露の法雨』の功德について書かれている。まちがいに ○ をつけよ

- 1 『甘露の法雨』の作者は観世音菩薩である。したがって『甘露の法雨』の意味が分からずに読んでも功德がある。
- 2 聖經の意味が解ってよむと、読む方でもそのお經の作者である観世音菩薩が伝えようとせられたところの真理の意味を本当に深く感得することが出来功德がある。
- 3 自分の潜在意識の深層に真理の“心の波動”が起る。そうすると、真理の“心の波動”がその聖經を聴いて居る祖先の靈魂に放送され、以心伝心波及されまして、それによって一層祖先が功德を得て、悟りをひらいて靈界で自由自在の境涯を得るということになる。
- 4 『甘露の法雨』の功德により、先祖の靈魂が悟りに導かれ、実相顯現に繋がってくるのである。ですから迷える靈魂に悟って頂く為には、熱心に読誦しなければならないのです。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第9問 生長の家の先祖供養と方法で、まちがっているものに ○ をつけよ

- 1 亡くなって50年は個別靈として、50年過ぎると〇〇家先祖代々に入れる。
- 2 毒殺、非業の最期を遂げた靈魂は50年過ぎても個別で供養する。
- 3 亡くなって50年過ぎると、生まれ変わっているので個別で供養しても効果がない。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第10問 次の文章で、まちがっているものに ○ をつけよ

- 1 人間には守護靈がついていて、その人を安全で、繁栄の道へ導いてくれるようになっている。
- 2 守護神は、その人の祖先の靈魂で、修行足りて或る程度の神通力を得たものが、予め産土神から選ばれて胎児の出産の刹那、その子供についていて、その人の一生涯を護っていてくれることになっているのである。
- 3 その人の仕事や、職務により、その仕事や職務に共鳴して、その人と共働するために、その人の守護靈となってくる靈もある。
- 4 守護神は、高級靈であるから、特に感謝の言葉をかけなくてもよいのである。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

【即答問題】

- 1 聖使命会員の方が、靈界に移られた後も、引き続き聖使命を果たすために結成されたのが（ ）会である。
- 2 物施と法施の意味
物施（ ） 法施（ ）
- 3 大地は（ ）根は（ ）幹は（ ）子孫は（ ）
枝葉に花咲き、よき果を結ぶは、親に（ ）、先祖に（ ）

第8問 『甘露の法雨』の功德について書かれている。まちがいに ○ をつけよ

- 1 『甘露の法雨』の作者は観世音菩薩である。したがって『甘露の法雨』の意味が分からずに読んでも功德がある。
- 2 聖經の意味が解ってよむと、読む方でもそのお経の作者である観世音菩薩が伝えようとせられたところの真理の意味を本当に深く感得することが出来功德がある。
- 3 自分の潜在意識の深層に真理の“心の波動”が起る。そうすると、真理の“心の波動”がその聖經を聴いて居る祖先の靈魂に放送され、以心伝心波及されまして、それによって一層祖先が功德を得て、悟りをひらいて靈界で自由自在の境涯を得るということになる。
- ④ 『甘露の法雨』の功德により、先祖の靈魂が悟りに導かれ、実相顯現に繋がってくるのである。ですから先祖の迷える靈魂に向かって、集中的に読誦しなければならないのです。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第9問 生長の家の先祖供養と方法で、まちがっているものに ○ をつけよ

- 1 亡くなって50年は個別霊として、50年過ぎると〇〇家先祖代々に入れる。
- 2 毒殺、非業の最期を遂げた靈魂は50年過ぎても個別で供養する。
- ③ 亡くなって50年過ぎると、生まれ変わっているのもので個別で供養しても効果がない。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

第10問 次の文章で、まちがっているものに ○ をつけよ

- 1 人間には守護霊がついていて、その人を安全で、繁栄の道へ導いてくれるようになっている。
- 2 守護神は、その人の祖先の靈魂で、修行足りて或る程度の神通力を得たものが、予め産土神から選ばれて胎児の出産の刹那、その子供についていて、その人の一生涯を護っていてくれることになっているのである。
- 3 その人の仕事や、職務により、その仕事や職務に共鳴して、その人と共働するために、その人の守護霊となってくる霊もある。
- ④ 守護神は、高級霊であるから、特に感謝の言葉をかけなくてもよいのである。

『新版 人生を支配する先祖供養』参照

【即答問題】

- 1 聖使命会員の方が、靈界に移られた後も、引き続き聖使命を果たすために結成されたのが（ 靈宮聖使命 ）会である。
- 2 物施と法施の意味
物施（ お供え ） 法施（ お経・聖經・真理の施し ）
- 3 大地は（ 神 様 ）根は（ 祖 先 ）幹は（ 両 親 ）子孫は（ 枝 葉 ）
枝葉に花咲き、よき果を結ぶは、親に（ 孝 行 ）、先祖に（ 供 養 ）